

少年センターだより

発行 日野町少年センター
〒529-1602
日野町河原一丁目1番地
TEL/FAX 0748-53-1325
<http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c>

子どもたちが健やかに育ってほしい。それは家族や周囲の大人だけでなく、社会全体の願いです。しかし、家庭や学校、地域社会など、子どもを取り巻く様々な環境の中、ささいなきっかけで、非行に走ったり、犯罪の被害にあったりする子どもも少なくありません。毎年7月は「青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間」です。青少年を非行や犯罪被害から守るために、大人は何をすべきかを考えてみましょう。



地域の子どもたちを地域で育てましょう！

本当のコミュニケーションを教えてあげたい

子どもたちにとって待ちに待った夏休み。学校以外での様々な体験ができる機会ですが、一方、学校や勉強から解放されて、非行の兆しが出やすい時期でもあります。近年はスマートフォンやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を始めとする新たな機器やサービスが急速に浸透し、子どもを取り巻くインターネット環境が大きく変化しています。こうした中、近年SNSの利用をきっかけに、児童買春や児童ポルノ、誘拐事件に巻き込まれるなどの被害が増加傾向となっています。さらには、他人とのコミュニケーションをインターネットを通じてのみ行うことに慣れてしまい、実際にコミュニケーションがとれていると勘違いしていることもよくあります。

地域の教育力を発揮しましょう

子どもたちを非行や犯罪被害から守るためには、家庭や学校、警察だけでなく、地域や社会全体が協力して、様々な取組を進めることが必要です。日野町では、コロナ禍で開催が見送られてきた、氏郷まつりや、納涼祭、花火大会などが再開されようとしています。

感染症には十分に注意しなければなりません、各行事は地域の子どもたちを育てるまたとないチャンスです。インターネットを通じてしかコミュニケーションを知らない子どもたちに、また、大人にも実際に人と人がふれあい、語り合い、つながり合うすばらしさ、大切さを教えていきたいものです。地域の子どもを地域で育てることが、子どもたちを非行や犯罪被害から守り、ひいては、日野町を安全、安心な町にし、住みよい町にすることにつながります。



「若者の社会参加の推進に向けて」

日野高等学校 校長 岸村 米和

令和4年4月の人事異動で日野高等学校に赴任いたしました岸村です。地域の皆様には、平素から本校に対し多大なご支援を賜りまして、ありがとうございます。

さて現在、高等学校には、年次進行で行われる学習指導要領の改訂、1人1台のタブレットPCの導入など、かつてない大きな変革の波が押し寄せています。その変化とタイミングを同じくして、この4月から民法の改正により、成年年齢が18歳に引き下げられました。この成年年齢引き下げをめぐっては、18歳になると親の同意なしに様々な契約を結ぶことが可能となるため、社会経験の少ない若者が、さまざまな契約上のトラブルに巻き込まれるのではないかと心配されているところです。

そのような課題がある一方で、世界的には、18歳を成年年齢としている国が多いほか、今後、世界が協力して解決すべき環境、差別、貧困、人権などの様々な課題の解決には、既存の価値観にとらわれない若い世代の力が必要だとして、若者に期待する声が高まっています。これからの日本社会において若者の社会参加を進めるためにも、学校としては、この変化にしっかり向き合っていかなければならないと感じています。

日野高等学校では、生徒自身が自分の将来や日野町の未来を考える場として、昨年度から「日野チャレ体験学習」をスタートし、地域の文化や伝統、さらには解決すべき社会課題について学ぶ機会の充実に努めています。

コロナ禍が未だに収まらない中ですが、感染対策には十分配慮をしつつ、今年度も引き続き、日野のまちをフィールドとして、学びを深めてまいりたいと考えております。地域の皆様には、何卒、ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

子育て小窓

「育つ木（立ち上がる木）を見守る」のが、「親」という文字だ、とよく言われます。でも実際は、最初から一人前の親などはいません。『子育ては、親育ち』でもあるのです。

現代では、親だけで子どもを育てることはとても無理です。ましてや、ネット社会と言われる今の時代は、親一人が見守れるものでもなく、たくさんの人たちとの関わりの中で、子どもと共に親も育っていくことが求められているのではないのでしょうか。

コロナ禍が始まり、ウィズコロナの時代と言われるようになって3年目になります。大人だけでなく、いろいろな面がまんや制約を受けているのは、子どもも同じです。がまんは、その原因の大小に関係なくストレスになります。子どもたちは、日々のストレスを、言葉より行動面で表出することが多いと言われています。最近すねることが多い、すぐ泣くようになった、攻撃的なもの言いをする、突然キレる…など、何かいつもと違う！？と気がついたら、まずは、ゆっくり子どもの話を聞いてあげてくださいね。

手を大きく広げて立ちあがる人（人という字は1人では立てない）を大人と言います。たくさんの大人が手をつなぎ子どもを支え育んでいく。そうすることで「豊かな森」を育てていきましょう。



日野町子育て・教育相談センター 相談員N・N

私たちも 子どもたちを応援しています

スクールソーシャルワーカー (SSW)

子どもを取り巻く社会の様子は、ここ十数年の間に大きく様変わりしました。例えば、昭和の時代では当たり前だった「終身雇用」が、今では非正規雇用が4割近くになっており、給与水準も長らく低迷したままです。地域の横のつながりは希薄になり、何かにつけて自助が強調されます。そんな中、大人の「暮らし」はしんどさを増すばかりで、それは少なからず子どもの「暮らし」にも影響を与えています。

スクールソーシャルワーカーは、そういった「暮らし」の様々な課題から、子どもの抱える、いじめや不登校等の課題にいたるまで、学校の先生方や、少年センター、子育て・教育相談センター等と協働することで、「子どもの最善の利益」を守ることを目指して活動しています。

町内小・中学校に、曜日指定で来ています。必要なときには、学校を通じていつでもお声かけください。



更生保護女性会

更生保護女性会は、女性の持つ温かさや細やかさを生かして、犯罪や非行をした人の更生保護の支援活動を行うボランティア団体です。全国に1,300の地区会があり、約148,000人の会員が活躍しております。

日野町では、現在80名あまりの会員が活動しています。

活動の一つに施設等への支援活動があります。

淡海学園交流行事では、毎年子どもたちを招いて「一日お母さん」を催して、カレーでランチのあとは全員でゲームをします。賑やかな歓声の中、時間を忘れるくらい、楽しいひとときとなっています。

ます。

また、中学校でのあいさつ運動にも参加させていただいていますが、昨年から各地区の会員が小学校での朝のあいさつ運動にも参加し、登校する子どもたちに声をかけています。日増しに返ってくる声も大きくなり喜びを感じています。

令和3年度「滋賀県民総あいさつ運動」で顕彰される 「鎌掛みまもり隊」

5月20日に行われた滋賀県青少年育成県民会議の総会において、日野町「鎌掛みまもり隊」の活動が、長年の善行と、後世にまで伝えたい活動として顕彰されました。毎日の「みまもり活動」を行うことで、子どもたちや地域の安心・安全を確保されています。その取組成果を民生委員・児童委員の奥村恭司氏が発表されました。



少年補導委員の活動

あいさつ運動や街頭補導の他に、啓発活動にも精力的に取り組んでいます。幼稚園、保育園、こども園には、防犯を呼びかけるためのペープサートの練習を行っています。氏郷まつりや文化祭でも啓発を行うためのアイデアを練っているところです。小学校へは、「青パトだより」(右の写真)を掲示して、気軽に相談できる地域の大人として知ってもらい、安心・安全な生活、非行防止等に役立てていきます。



あお青パトのおじちゃん おばちゃん ～みんなを守る お仕事をしています～

みなさんも見たことがある、青色の上着を着たおじちゃん、おばちゃんは、少年補導員といって、朝のあいさつ運動でみなさんを迎えたり、学校からの帰りに「青パト」で見守りをしたりしています。ほかに、幼稚園や保育園などで、危険なことに巻き込まれないようにお話をするなど、みなさんを守る活動をたくさんしています。



お家のことや自分のこと、友だちのことや学校のことなど、こまったことがあれば、みなさんといっしょに考えますよ。どんどん相談してくださいね。また、相談に行きたいときは、「警部交番」や校通近くの勤労福祉会館の2階には、「少年センター」もあります。



少年補導員のおじちゃん、おばちゃんにあいさつしてみよう!

あいさつは、笑顔を生み、心を明るくしてくれます。また、あいさつは毎日一日のエネルギーにもなります。大きな声であいさつしてみよう。

ひのちようしょうねんぼどういんかい ひがしおうみかいさつしょ ひのちようしょうねん
日野町少年補導委員会 東近江警察署 日野町少年センター

つぶやき

私達が今、引き継いでいる日野祭は約850年、曳山の歴史も約250年の昔から連綿として続いてきています。日野祭という文化財を後世に伝えるために曳山本体の保存活用はもとより、親から子へ大人から子どもへと伝わってきた祭囃子の伝承や曳山巡行の技術の継承が大切です。すべては人から人へとつながり伝えてこられたものです。同様に子育てや社会のルールも大人が子どもに伝えていく必要があります。私の町内では4月になると祭囃子の練習が始まります。子どもにとっては、生まれた時から体に染みこんでいる祭囃子です。囃子の伝承は町内の子どもも自分の子どもも同じように厳しく教えます。

そんな中から信頼関係が生まれてくるのか、気軽に小学生からも「たっぴこさん」と呼ばれています。普段の生活でも自然とあいさつが出来るようになります。地域の活動に参加することで地域住民が一つになって、地域で子どもを育てる環境が出来るのではないかと思います。これからも人と人とのつながりを大切にしてみんなで子育てが出来るようにしていきたいものです。

日野町少年補導委員 外池多津彦

学習サポーター大募集!

子どもたちの学習活動を手伝う様々な活動を行っています。

町内に在住の大学生や教員OB等の皆さん、学習サポーターとなって中学生に勉強を教えてみませんか?ぜひ地域の中学生等のために力をお貸しください。連絡をお待ちしています。



ひとりで悩まないで まずは相談を!



少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。秘密は厳守します。

○電話相談 ○面接相談

○相談時間：月～金 9:00～16:30

日野町少年センター(勤労福祉会館 2階)

電話 0748-53-1325

E-mail hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp